

# 時の状況成分と頻度の修飾成分との 共起と語順について

彭 玉 全

## 0. はじめに

時の状況成分と頻度の修飾成分との語順について、先行研究では、時の状況成分が頻度の修飾成分の前に出現する<sup>1</sup>、または、時の状況成分と頻度の修飾成分は包み包み込まれる関係である<sup>2</sup>と指摘されている。しかし、次のような頻度の修飾成分が時の状況成分の前に出現する文の許容度は高いと思われる。

(1) 彼は、いつも 7時に起きる。

頻度の修飾成分の前後に出現する時の状況成分は、如何なる性質を持っているか、これまでの先行研究では、まだ論及されていない。時の状況成分と頻度の修飾成分との共起と語順について、考察する余地が残っていると思われる。

本稿の目的は、コーパス用例調査によって時の状況成分と頻度の修飾成分との共起実態を考察し、アンケート調査によってこの二つの成分の共起と語順について検討することにある。

ここでは、本稿での用語について説明しておきたい。時の状況成分とは、事態が発生・成立する時の状況を説明する成分で、従来「時点の副詞」か、「時の名詞」、「時の修飾成分」と呼ばれるものである。例えば、「昔、最近、子供のころ、3日前に、この時期、1981年以來、2003年9月から、朝、夕方、8時に、…」など。副詞的修飾成分には、事態が時間軸において繰り返し発生する回数的なあり方を表すものがある。その中には、時間軸において繰り返す事態の回数性を表すものがあり、例えば、「一度、一回、三度、五回、何度、何回、…」など、従来、このような副詞は、「度数の副詞」(仁田2002)、或は「度数の修飾成分」(矢澤2000,2007)と呼ばれている。これに対して、頻度の副詞は、時間軸において存在する事態の多寡性を表すもの<sup>3</sup>で、頻度の修飾成分と呼ばれている。例えば、「いつも、常に、しばしば、時々、たまに、…」など。

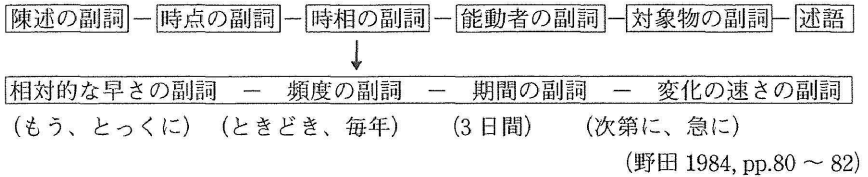
本稿でいう「共起」は、「たぶん…でしょう」のような陳述副詞とモダリティ形式との共起や、「めったに…ない」のような副詞と否定形式との共起と異なって、一方があれば、もう一方が必ず呼応するという意味での共起ではない。本稿でいう共起は、二つ

の成分が共に同一の事態（述語動詞）を修飾するという意味での共起である。本稿の目的の一つは、どういう時の状況成分が頻度の修飾成分（頻度の副詞）の前後に出現できるか、或はできないかを検討することである。

本稿でいう「語順」は、二つの成分の相対的な前後関係であって、二つの成分の間に、他の成分が入ってもかまわない。だが、考察の便宜のために、二つの成分の間に出現する可能な成分を抜いて考察する。本稿のもう一つの目的は、この二つの成分の語順が文の許容度への影響や、また、頻度の修飾成分が文の許容度への影響を考察する。

## 1. 先行研究

野田（1984）は、副詞的成分の語順について、次のように指摘している。



野田（1984）での「時点の副詞」は、「来年」「昔」「2,3日前」「9時に」などのような副詞で、仁田（2002）での「時の状況成分」に相当する。上の指摘からみれば、頻度の修飾成分は、時の状況成分の後に出現する。

また、野田（2006）では、「副詞的成分は、基本的に、『モダリティの副詞的成分 - テンスの副詞的成分 - アスペクトの副詞的成分 - 動作者の副詞的成分 - 対象物の副詞的成分』の順序になる。」と指摘されている。時の状況成分は、ここの「テンスの副詞的成分」に、頻度の修飾成分は、ここの「アスペクトの副詞的成分」に、それぞれ属すると思われる。

野田（1984）と野田（2006）は、いずれも、大まかに副詞的成分の語順について論及している。が、時の状況成分（即ち、時点の副詞）と頻度の修飾成分（即ち、頻度の副詞）の語順についてまだ細かく考察されていない。例えば、上の（1）においては、頻度の副詞「いつも」が時の状況成分「7時に」の前に出現する場合もある。この場合について、野田は触れていなかった。

仁田（2002）は、副詞的成分の、包み込み込まれる関係とそれらの作用域の大小関係を大まかに指摘した。

[時の状況成分 [頻度の副詞 [時間関係の副詞 [様態の副詞]]]]

仁田（2002, p.41）

仁田 (2002) では、副詞的成分の語順について明言されていないが、その包摂関係から見れば、時の状況成分が頻度の副詞の前に出現するといえる。

また、仁田 (2002, p.203) では、「時の状況成分が頻度の副詞を包み込むためには、時の状況成分が、ある頻度性で生じる事態が存在しうる時間幅を有していなければならない。」と指摘されている。言い換えれば、頻度の副詞の前に現れる時の状況成分が必ず時間幅を持たなくてはいけないわけである。しかし、次のような時間幅を持たない時の状況成分が頻度の副詞と共起しても文の許容度が低くないといえる。

(2) この道路は、朝9時に 時々渋滞している。

(2)における時の状況成分「朝9時に」は、時間幅がないが、その後「時々」という頻度の修飾成分と共に、述語動詞を修飾していても、(2)という文が自然であると思われる。

先行研究では、時の状況成分が頻度の修飾成分の前に出現するという傾向が指摘されている。これは、研究者が自省によって捉えられた結論であるが、実際に、頻度の修飾成分の後に出現できない時の状況成分もあれば、頻度の修飾成分の前にも後にも出現できない時の状況成分もあると思われる。

- (3) a ○ 太郎は、去年 時々図書館に行っていた。  
b × 太郎は、時々 去年図書館に行っていた。
- (4) a × 太郎は、去年3月27日午前11時に 時々図書館に行った。  
b × 太郎は、時々 去年3月27日午前11時図書館に行った。
- (5) a ○ 花子は、土曜日に いつも買い物に行く。  
b ○ 花子は、いつも 土曜日に買い物に行く。

(3a)においては、時の状況成分「去年」が頻度の修飾成分「時々」の前に現れ、文が自然であるが、(3b)においては、「去年」が「時々」の後に位置し、文が成立しない。(4a)と(4b)においては、時の状況成分「去年3月27日午前11時に」が、頻度の修飾成分「時々」の前にも後にも現れてはいけない。(5a)と(5b)においては、時の状況成分「土曜日に」が頻度の修飾成分「いつも」の前にも後にも現れても文の許容度が高い。

本稿は、コーパスにおける時の状況成分と頻度の修飾成分の共起する実態の調査や、日本人母語話者にアンケート調査によって、実態を明らかにして、この二つの成分の共起と語順について考察する。

## 2. コーパス調査から見た時の状況成分と頻度の修飾成分との共起と語順

本稿は次のような資料でコーパス用例調査を行った。

- ① 『CD-ROM 版 新潮文庫の100冊』(新潮社版、1995年)
- ② 新聞データベース：『朝日新聞』(1985年1月～1991年12月)  
『毎日新聞』(1999年1月～2003年12月)

コーパス調査は、「いつも、常に、絶えず、頻繁に、しょっちゅう、しきりに、しばしば、たびたび、時々、時折、たまに、まれに、めったに」<sup>4</sup>をサンプルとして、用例を検索した。『新潮文庫』から取った用例を全て採取し、新聞の用例<sup>5</sup>は、任意の500例ずつを選び、用例を集めた。

### 2.1. 時の状況成分の類型

時の状況成分は、事態が発生・成立する時の状況を説明する成分である。時の状況成分には、時間軸に釘付けられている時点を表すものがある。例えば、「昔」「子供のころ」「去年」「昨日」「2008年5月31日午後3時に」などは、発話時より時間軸の上に定められていて、発話時の前後に繰り返すことができない時点で、このような時の状況成分は「+定的な時の状況成分」と呼ぶ。

これに対して、「夏」「2月に」「日曜日に」「夕方」「午後3時に」などは、時間軸の上に定められていない、発話時の前後に繰り返すことができる時点で、このような時の状況成分は、「-定的な時の状況成分」と呼ぶ。一つの時点詞が定的であるか不定的であるかは、人間の常識や文脈から判断できる。

また、時の状況成分には、時間幅があるものと時間幅がないものがある。時間幅というのは、時間の長さのことである。時間幅がある時の状況成分は、動作の達成量を修飾できるが、時間幅がない時の状況成分は、動作の達成量を修飾できないというテストで、時間幅があるかどうかは、判定できる。時間幅がない時の名詞の後に「から」「まで」などの格助詞や「以来」「以後」などの名詞が付いた場合、時間幅を表す時の状況成分になる。

- (6) a × 太郎は 3時に 5キロ 走った。
- b ○ 太郎は 3時から 5キロ 走った。
- c ○ 太郎は 朝 5キロ 走った。

(6)においては、「3時に」は、動作の達成量「5キロ走った」を修飾できないのに対して、「3時から」「朝」は、それを修飾できる。このテストから見れば、「3時に」は、時間幅がない、「3時から」「朝」は、時間幅がある。

定的であるかどうか、時間幅があるかどうか、という二つの素性を組みあわせて理屈から考えれば、時の状況成分は、次のような類型があるわけである。

- A 「定的、かつ、時間幅がある時の状況成分」
- B 「定的、かつ、時間幅がない時の状況成分」
- C 「不定的、かつ、時間幅がある時の状況成分」
- D 「不定的、かつ、時間幅がない時の状況成分」

これらは、例をあげてみれば、次の表1になる。

表1 時の状況成分の種類

	+時間幅	- 時間幅
+定的	A 例：昔、子供のころ、1989年に、去年、最近	B 例：2005年7月10日午前9時に
-定的	C 例：夏、2月末、日曜日（に）、誕生日に、朝	D 例：10時に、夕方6時に

原理的にいえば、時間幅を持つ時の状況成分は、「+定的」にしても、「-定的」にしても、「繰り返しの幅」が保証されているので、事態<sup>6</sup>がその時間幅において繰り返し発生することが可能である。逆に、時間幅を持っていない時の状況成分は、「+定的」の場合、時間軸において一点であるため、事態が繰り返し発生することが不可能であるが、「-定的」の場合、時間軸において一点ではなく、幾つかの点があるので、事態がそれらの点において繰り返し発生・出現できることが可能である。したがって、上の時の状況成分には、A、C、Dの類は、頻度の修飾成分と共起することが可能であるが、Bの類は、頻度の修飾成分と共起することができないといえる。原理的には、このように推論しているが、時の状況成分と頻度の修飾成分が共起する実態がどうなるかは、コーパス用例調査とアンケート調査によって考察しなければ分からない。

## 2.2. 時の状況成分 → 頻度の修飾成分

野田 (1984,2006) と仁田 (2002) は、時の状況成分が頻度の修飾成分の前に出現すると指摘している。本稿のコーパス用例調査によって、時の状況成分→頻度の修飾成分という語順の用例は、次のようなものが取り上げられる。

- (7) 子供のころから いつも犬を飼っていた。 (『毎日新聞』2001年01月16日)
- (8) 母は昔、いつもこの足踏みミシンをかけていた。  
(『毎日新聞』2000年05月05日)
- (9) 高校時代、しょっちゅう停学になって迷惑をかけた。  
(『毎日新聞』2001年08月17日)
- (10) 調査を始めた1981年以来、常に50%前後で首位をしめてきた。  
(『毎日新聞』2001年10月20日)

- (11) 同市によると、89年に男の自宅前の市道を大型車両が頻繁に通過し、接触事故で軒先が壊されたのをきっかけに、脅迫が始まった。  
 (『毎日新聞』2001年09月04日)
- (12) 姉の成田きんさんが1月23日に亡くなると、元気だったぎんさんも体調を崩し、2月末からたびたび呼吸困難に陥るようになった。  
 (『毎日新聞』2000年04月01日)
- (13) ひとこと欄を設けたら、「結婚記念日にはいつも泊っています」とかメッセージがあって、うれしかった。  
 (『毎日新聞』2000年02月04日)
- (14) 土日は いつも野外訓練に行ったり、奉仕活動したりする。  
 (『毎日新聞』2000年11月06日)
- (15) 「急に変化する状態ではないので、毎日行ってはけません。火曜日と金曜日に診に行くことにしています。それに、日曜日の午後、ときどき、行くことがあります」(松本清張『点と線』)
- (16) 午前9時にはいつも家を出た。  
 (『毎日新聞』2001年09月03日)

上の用例には、(7)～(12)における時の状況成分は、2.1.節で述べたA「定的、かつ、時間幅がある時の状況成分」類のもので、(13)～(15)における時の状況成分は、C「不定的、かつ、時間幅がある時の状況成分」類のものである。(16)における時の状況成分は、D「不定的、かつ、時間幅がない時の状況成分」類のものである。これに対して、B「定的、かつ、時間幅がない時の状況成分」の用例が採取できなかった。今回のコーパス用例調査によると、頻度の修飾成分の前に出現する時の状況成分を整理すれば、次の表2のようになる。

表2 頻度の修飾成分の前に出現する時の状況成分

	A	B	C	D	合計
用例数	115	0	93	1	209
割合	55.02%	0	44.50%	0.48%	100%
出現可能性	○	×	○	?	

表2から分かるように、頻度の修飾成分の前に現れる時の状況成分は、定的なものでも不定的なものでも構わないが、時間幅を持っているもの(A、Cの類)のほうが圧倒的に多い。これに対して、B「定的、かつ、時間幅がない時の状況成分」の用例がない。D類の時間幅がない時の状況成分の用例があるが、ただし、(16)という1例しかない。(16)においては、「午前9時に」が「は」によって取り立てて「いつも」の前に位置させて、本来は「いつも午前9時に家を出た」という語順であると思われる。

### 2.3. 頻度の修飾成分→時の状況成分

2.2. 節で頻度の修飾成分の前に出現する時の状況成分の実態が分かった。これに対して、今回のコーパス用例調査によると、頻度の修飾成分の後に出現する時の状況成分の用例も採取できた。しかし、「いつも」「時々」「時折」「たまに」という頻度の修飾成分の後に出現する用例は見つかったものの、これ以外の頻度の修飾成分の後に出現する時の状況成分の用例が採取できなかった。

- (17) 27 日午後 11 時ごろ「ゴフン」と声が漏れ、家族は「いつも午前 1 時ごろから大声でしゃべり始めてにぎやかになるので、今日も準備かねえ」などと冗談めかしながら心配していたという。 (『毎日新聞』2001 年 02 月 29 日)
- (18) 滝田さんはいつも、3 月の上旬に節分草に会いに行く。 (『朝日新聞』1988 年 02 月 16 日)
- (19) ただ鼠をとるのが上手で、ときどき 夜中にすごい音をたてて、梁の上で鼠をおさえてつき殺していました。 (竹山道雄『ビルマの竖琴』)
- (20) 鮎太には何よりその都市が郷里の伊豆の天城山の麓の村に近いということが気に入っていた。時折、日曜、祭日と休みの続く時など、小学校時代を過ぎた郷里の部落の土を踏むことが出来たらどんなに素晴らしいだろうと思った。 (井上靖『あすなる物語』)
- (21) 「いつも 11 時半ぐらいにニッポン放送に入るんです。 (『毎日新聞』2000 年 11 月 01 日)

(17)における「午前 1 時ごろから」や (18) の「3 月の上旬に」、(19) における「夜中に」、(20) における「日曜、祭日と休みの続く時」は、いずれも、C 類の時の状況成分で、頻度の修飾成分の後に現れる。(21) における「11 時半ぐらいに」のような D 類の時の状況成分である。今回のコーパス用例調査では、頻度の修飾成分の後に現れる時の状況成分の用例は、合計で 13 例しかない。(21) のような D 類の時の状況成分が頻度の修飾成分の後に出現する用例は、1 例しかないので、例外としておく。

表 3 頻度の修飾成分の後に出現する時の状況成分

	A	B	C	D	合計
用例数	0	0	12	1	13
割合	0	0	92.31%	7.69%	100%
出現可能性	×	×	○	?	

表 2 と表 3 を比べて、時の状況成分が頻度の修飾成分の前に出現する用例は、その後に出現する用例より圧倒的に多い (209 例 / 13 例) ようである。B 類は頻度の修飾成分の前に現れる用例がないのに対して、A 類と B 類は、頻度の修飾成分の後に現れ

る用例がない。また、時の状況成分が頻度の修飾成分の後に出現する用例は、「いつも」「時々」「時折」「たまに」といった頻度の修飾成分の場合に限られているが、時の状況成分がこれ以外の頻度の修飾成分と共起できるかどうかは、まだ判断できない。コーパスの中には時の状況成分と「常に」「しょっちゅう」などの頻度の修飾成分と共起する用例がないが、日本人母語話者は、実際にそのように使用するかどうか、日本人母語話者を調査対象とするアンケート調査が行われる必要がある。

### 3. アンケート調査

筆者は、時の状況成分と頻度の修飾成分と共起する例文を104例作成して、52例ずつ二つのアンケート用紙に分けて、2009年6月に、それぞれ42人、35人の筑波大学在学の日本人大学生(20代)とつくば市日中協会中国語講座の学生(年齢は40代～70代)を対象とし、アンケート調査を行った。被験者に時の状況成分と頻度の修飾成分と共起する文の許容度を自然(○)、やや不自然(△)、不自然(×)という三段階で判定してもらった。

#### 3.1. アンケート調査結果

本稿では、○、△、×という三段階をそれぞれ、2点、1点、0点に数量化して、次の(i)、(ii)の計算式で平均値を算出する。平均値は、2点を基準とし、平均値「0～0.66」を「不自然な文」、平均値「0.67～1.32」を「やや不自然な文」、平均値「1.32～2.00」を「自然な文」という基準で判断する。

$$(i) \text{ 平均値} = \{(\text{○の人数} \times 2) + (\text{△の人数} \times 1) + (\text{×の人数} \times 0)\} \div 42 \text{人}$$

$$(ii) \text{ 平均値} = \{(\text{○の人数} \times 2) + (\text{△の人数} \times 1) + (\text{×の人数} \times 0)\} \div 35 \text{人}$$

アンケート調査の結果は、表4-1、表4-2、表4-3、表4-4で示す。これらの表においては、○、△、×がそれぞれ「自然」、「やや不自然」、「不自然」を表し、それぞれのパーセンテージを示す。また、平均値によって、例文の許容度を判断する。

表 4-1 アンケート調査結果：A類の時の状況成分の場合

番号	例文	○	△	×	平均値	判定
1	太郎は、去年いつも図書館へ行っていた。	51.43%	42.86%	5.71%	1.46	○
2	太郎は、いつも去年図書館へ行っていた。	8.57%	48.57%	42.86%	0.65	×
3	太郎は、去年常に図書館へ行っていた。	54.29%	28.57%	17.14%	1.37	○
4	太郎は、常に去年図書館へ行っていた。	4.77%	33.33%	61.90%	0.43	×
5	太郎は、去年たびたび図書館へ行っていた。	80.95%	11.90%	7.15%	1.74	○



6	太郎は、たびたび去年図書館へ行っていた。	19.04%	42.86%	38.09%	0.81	△
7	太郎は、去年しょっちゅう図書館へ行っていた。	83.33%	7.14%	9.53%	1.74	○
8	太郎は、しょっちゅう去年図書館へ行っていた。	21.43%	38.09%	40.48%	0.81	△
9	太郎は、去年しばしば図書館へ行っていた。	82.86%	11.43%	5.71%	1.77	○
10	太郎は、しばしば去年図書館へ行っていた。	16.67%	47.62%	35.71%	0.81	△
11	太郎は、去年時々図書館へ行っていた。	74.29%	20.00%	5.71%	1.69	○
12	太郎は、時々去年図書館へ行っていた。	14.29%	31.43%	54.28%	0.6	×
13	太郎は、去年たまに図書館へ行っていた。	85.71%	2.86%	11.43%	1.74	○
14	太郎は、たまに去年図書館へ行っていた。	14.29%	48.57%	37.14%	0.77	△
15	花子は、去年いつもお酒を飲んでた。	64.29%	23.81%	11.90%	1.52	○
16	花子は、いつも去年お酒を飲んでた。	9.53%	38.09%	52.38%	0.57	×
17	花子は、去年常にお酒を飲んでた。	57.14%	33.33%	9.53%	1.48	○
18	花子は、常に去年お酒を飲んでた。	9.52%	45.24%	45.24%	0.64	×
19	花子は、去年時々お酒を飲んでた。	71.43%	22.86%	5.71%	1.66	○
20	花子は、時々去年お酒を飲んでた。	0	37.14%	62.86%	0.37	×

表4-1においては、奇数番号の例文は、A類「+定的」「+時間幅」の時の状況成分が頻度の修飾成分の前に出現する場合を表し、偶数番号の例文は、A類の時の状況成分が頻度の修飾成分の後に現れる場合を表す。表4-1の平均値から判断すれば、全体的には、次の傾向が見られる<sup>7</sup>。

#### 傾向1

A類の時の状況成分は頻度の修飾成分の前に出現できる。  
A類の時の状況成分は頻度の修飾成分の後に出現できない。

表4-2 アンケート調査結果：B類の時の状況成分の場合

番号	例文	○	△	×	平均値	判定
21	私は、去年3月27日午前11時にいつも花見に行った。	2.86%	0	97.14%	0.06	×
22	私は、いつも去年3月27日午前11時に花見に行った。	2.38%	2.38%	95.24%	0.07	×
23	私は、去年3月27日午前11時に常に花見に行った。	0	9.52%	90.48%	0.10	×
24	私は、常に去年3月27日午前11時に花見に行った。	2.38%	4.76%	92.86%	0.10	×
25	私は、去年3月27日午前11時にしばしば花見に行った。	0	2.39%	97.61%	0.02	×
26	私は、しばしば去年3月27日午前11時に花見に行った。	2.86%	5.71%	91.43%	0.11	×
27	私は、去年3月27日午前11時にしょっちゅう花見に行った。	0	0	100%	0	×
28	私は、しょっちゅう去年3月27日午前11時に花見に行った。	0	0	100%	0	×

29	私は、去年3月27日午前11時に時々花見に行った。	0	0	100%	0	×
30	私は、時々去年3月27日午前11時に花見に行った。	0	5.71%	94.29%	0.06	×
31	彼は、昨日夜8時にいつも家へ遊びに来ていた。	2.86%	0	97.14%	0.03	×
32	彼は、いつも昨日夜8時に家へ遊びに来ていた。	0	0	100%	0	×
33	彼は、昨日夜8時に常に家へ遊びに来ていた。	2.38%	11.90%	85.72%	0.17	×
34	彼は、常に昨日夜8時に家へ遊びに来ていた。	0	2.38%	97.62%	0.02	×
35	彼は、昨日夜8時にしょっちゅう家へ遊びに来ていた。	4.77%	7.14%	88.09%	0.17	×
36	彼は、しょっちゅう昨日夜8時に家へ遊びに来ていた。	0	11.90%	88.10%	0.13	×
37	彼は、昨日夜8時にしばしば家へ遊びに来ていた。	2.38%	0	97.62%	0.05	×
38	彼は、しばしば昨日夜8時に家へ遊びに来ていた。	0	9.52%	90.48%	0.1	×
39	彼は、昨日夜8時に時々家へ遊びに来ていた。	2.86%	2.86%	94.28%	0.09	×
40	彼は、時々昨日夜8時に家へ遊びに来ていた。	0	2.86%	97.14%	0.03	×

表4-2においては、奇数番号の例文は、B類「+定的」「-時間幅」の時の状況成分が頻度の修飾成分の前に出現する場合を表し、偶数番号の例文は、B類の時の状況成分が頻度の修飾成分の後に現れる場合を表す。表4-2の平均値から判断すれば、全体的には、次の傾向が見られる。

#### 傾向2

B類の時の状況成分は頻度の修飾成分の前に出現できない。  
B類の時の状況成分は頻度の修飾成分の後に出現できない。

ここから見れば、B類の時の状況成分は頻度の修飾成分と共起できないといえる。

表4-3 アンケート調査結果：C類の時の状況成分の場合

番号	例文	○	△	×	平均値	判定
41	この地方では、5月の下旬にいつも雨が降る。	92.86%	4.76%	2.38%	1.9	○
42	この地方ではいつも5月の下旬に雨が降る。	88.09%	9.53%	2.38%	1.86	○
43	この地方では、5月の下旬に常に雨が降る。	28.57%	57.14%	14.29%	1.14	△
44	この地方では常に5月の下旬に雨が降る。	57.14%	28.57%	14.29%	1.43	○
45	この地方では、5月の下旬にしょっちゅう雨が降る。	85.71%	14.29%	0	1.66	○
46	この地方ではしょっちゅう5月の下旬に雨が降る。	48.57%	37.14%	14.29%	1.34	○
47	この地方では、5月の下旬に時々雨が降る。	91.43%	8.57%	0	1.91	○
48	この地方では時々5月の下旬に雨が降る。	65.71%	28.58%	5.71%	1.6	○
49	この地方では、5月の下旬にたまに雨が降る。	82.86%	17.14%	0	1.83	○

50	この地方では、たまに5月の下旬に雨が降る。	60.00%	31.43%	8.57%	1.51	○
51	花子は、日曜日にいつも美容院へ行く。	74.29%	22.85%	2.86%	1.71	○
52	花子は、いつも日曜日に美容院へ行く。	85.71%	11.43%	2.86%	1.82	○
53	花子は、日曜日にたびたび美容院へ行く。	64.29%	21.43%	14.28%	1.5	○
54	花子は、たびたび日曜日に美容院へ行く。	59.52%	28.58%	11.90%	1.48	○
55	花子は、日曜日にしばしば美容院へ行く。	73.81%	23.81%	2.38%	1.71	○
56	花子は、しばしば日曜日に美容院へ行く。	74.29%	8.57%	17.14%	1.57	○
57	花子は、日曜日に時々美容院へ行く。	85.71%	14.29%	0	1.86	○
58	花子は、時々日曜日に美容院へ行く。	54.76%	42.86%	2.39%	1.52	○
59	花子は、日曜日にたまに美容院へ行く。	83.33%	16.67%	0	1.83	○
60	花子は、たまに日曜日に美容院へ行く。	76.19%	19.05%	4.76%	1.73	○
61	私は、誕生日にいつもケーキを食べる。	92.86%	7.14%	0	1.93	○
62	私は、いつも誕生日にケーキを食べる。	78.57%	19.05%	2.38%	1.76	○
63	私は、誕生日に常にケーキを食べる。	62.86%	25.71%	11.43%	1.51	○
64	私は、常に誕生日にケーキを食べる。	35.71%	42.86%	21.43%	1.14	△
65	私は、誕生日にしばしばケーキを食べる。	68.57%	28.57%	5.71%	1.66	○
66	私は、しばしば誕生日にケーキを食べる。	57.14%	34.29%	8.57%	1.49	○
67	私は、誕生日にたびたびケーキを食べる。	51.43%	37.14%	11.43%	1.4	○
68	私は、たびたび誕生日にケーキを食べる。	11.43%	54.29%	34.28%	0.77	△
69	私は、誕生日に時々ケーキを食べる。	54.29%	40.00%	5.71%	1.49	○
70	私は、時々誕生日にケーキを食べる。	48.57%	34.29%	17.14%	1.34	○
71	われわれは結婚記念日にいつもパーティをする。	90.48%	7.14%	2.38%	1.88	○
72	われわれはいつも結婚記念日にパーティをする。	80.95%	19.05%	0	1.81	○
73	われわれは結婚記念日にたびたびパーティをする。	47.62%	26.19%	26.19%	1.21	△
74	われわれはたびたび結婚記念日にパーティをする。	52.38%	40.48%	7.14%	1.45	○
75	われわれは結婚記念日に常にパーティをする。	52.38%	40.48%	7.14%	1.45	○
76	われわれは常に結婚記念日にパーティをする。	71.43%	11.43%	17.14%	1.54	○
77	われわれは結婚記念日にしばしばパーティをする。	57.14%	26.19%	16.67%	1.40	○
78	われわれはしばしば結婚記念日にパーティをする。	54.29%	40.00%	5.71%	1.46	○
79	われわれは結婚記念日に時々パーティをする。	82.86%	17.14%	0	1.83	○
80	われわれは時々結婚記念日にパーティをする。	37.14%	57.14%	5.72%	1.31	△

表4-3においては、奇数番号の例文は、C類「一定的」[+時間幅]の時の状況成分が頻度の修飾成分の前に出現する場合を表し、偶数番号の例文は、C類の時の状況成分が頻度の修飾成分の後に現れる場合を表す。表4-3の平均値から判断すれば、全体的には、次の傾向が見られる。

傾向 3

C 類の時の状況成分は頻度の修飾成分の前に出現できる。  
 C 類の時の状況成分は頻度の修飾成分の後に出現できる。

表 4-4 アンケート調査結果：D 類の時の状況成分の場合

番号	例 文	○	△	×	平均値	判定
81	太郎は朝 6 時にいつも起きる。	57.14%	31.43%	11.43%	1.46	○
82	太郎はいつも朝 6 時に起きる。	100%	0	0	2	○
83	太郎は、朝 6 時に常に起きる。	42.86%	37.14%	20.00%	1.23	△
84	太郎は、常に朝 6 時に起きる。	94.29%	5.71%	0	1.94	○
85	太郎は、朝 6 時にしばしば起きる。	30.95%	50%	19.05%	1.11	△
86	太郎は、しばしば朝 6 時に起きる。	85.71%	14.29%	0	1.86	○
87	太郎は、朝 6 時にたびたび起きる。	28.57%	28.57%	42.86%	0.86	△
88	太郎は、たびたび朝 6 時に起きる。	52.38%	28.57%	19.05%	1.33	○
89	太郎は、朝 6 時に時々起きる。	50%	38.09%	11.90%	1.38	○
90	太郎は、時々朝 6 時に起きる。	88.57%	8.57%	2.86%	1.86	○
91	太郎は、朝 6 時にたまに起きる。	16.67%	50%	33.33%	0.83	△
92	太郎は、たまに朝 6 時に起きる。	100%	0	0	2	○
93	この道路は、朝 9 時にいつも渋滞している。	92.86%	7.14%	0	1.94	○
94	この道路は、いつも朝 9 時に渋滞している。	85.72%	11.90%	2.38%	1.83	○
95	この道路は、朝 9 時に常に渋滞している。	82.85%	14.29%	2.86%	1.51	○
96	この道路は、常に朝 9 時に渋滞している。	71.43%	21.43%	7.14%	1.64	○
97	この道路は、朝 9 時にたびたび渋滞している。	65.71%	28.58%	5.71%	1.6	○
98	この道路は、たびたび朝 9 時に渋滞している。	34.29%	48.57%	17.14%	0.89	△
99	この道路は、朝 9 時にしばしば渋滞している。	40.48%	54.76%	4.76%	1.36	○
100	この道路は、しばしば朝 9 時に渋滞している。	71.43%	23.81%	4.76%	1.67	○
101	この道路は、朝 9 時に時々渋滞している。	61.90%	26.19%	11.91%	1.50	○
102	この道路は、時々朝 9 時に渋滞している。	76.19%	21.43%	2.38%	1.74	○
103	この道路は、朝 9 時にたまに渋滞している。	68.57%	25.71%	5.71%	1.63	○
104	この道路は、たまに朝 9 時に渋滞している。	25.71%	60%	14.29%	1.11	△

表 4-4 においては、奇数番号の例文は、D 類「一定的」「一時間幅」の時の状況成分が頻度の修飾成分の前に出現する場合を表し、偶数番号の例文は、D 類の時の状況成分が頻度の修飾成分の後に現れる場合を表す。表 4-4 の平均値から判断すれば、全体的には、次の傾向が見られる。

#### 傾向 4

D 類の時の状況成分は頻度の修飾成分の前に出現できる。

D 類の時の状況成分は頻度の修飾成分の後に出現できる。

### 3.2. 分析

3.1. 節のアンケート結果によって、全体的に、時の状況成分が頻度の修飾成分の前後に出現できるかどうかという傾向が分かった。3.1. 節の傾向 1～傾向 4 と 2. 節の表 2, 表 3 と合わせてみれば、次の表 5 になる。

表 5 コーパス調査結果とアンケート結果の比較

場 合	調 査	A	B	C	D
時の状況成分→頻度の修飾成分	コーパス調査	○	×	○	?
	アンケート調査	○	×	○	○
頻度の修飾成分→時の状況成分	コーパス調査	×	×	○	?
	アンケート調査	×	×	○	○

表 5 から分かるように、コーパス用例調査の結果とアンケート調査の結果と比較すれば、A、B、C 類の時の状況成分と頻度の修飾成分と共起する傾向が同じである。問題になるのは、D 類の場合である。D 類の時の状況成分は、2. 節でのコーパス調査において、頻度の修飾成分の前後に出現する場合、いずれも、1 例しかないので、例外として扱われているが、3.1. 節のアンケート調査においては、頻度の修飾成分の前にも後にも出現できると判定している。このずれは、次の節で分析してみる。

#### 3.2.1. 時の状況成分と頻度の修飾成分との共起

この節では、2.2. 節と 2.3. 節のコーパス用例調査の結果と 3.1. 節で述べたアンケート調査の結果に基づいて、時の状況成分の類型ごとに、頻度の修飾成分の前後に出現し共起できるかどうかを分析する。

まず、時の状況成分の意味的特徴について分析してみる。2.1. 節で述べたように、A 類の時の状況成分は、「+定期的」「+時間幅」という特性を持っているので、時間軸上に唯一の時間幅に釘付けていて、この時間幅が繰り返すことができない、つまり、「繰り返しの幅」があるが、「繰り返し性」がない。B 類の時の状況成分は、「+定期的」「-時間幅」という特性を持ち、時間軸上に唯一の点に釘付けて、この点が繰り返しもできない、つまり、「繰り返しの幅」も、「繰り返し性」もない。C 類は、「-定期的」「+時間幅」という特性を持ち、時間軸上にこの時間幅が繰り返している、つまり、「繰り返しの幅」も「繰り返し性」も具有している。D 類は、「-定期的」「-時間幅」という特性を持ち、時間軸上に無数の点として繰り返している、つまり、「繰り返しの幅」がないが、「繰り返し性」

を持っている。この4類は、図式すれば、それぞれ次の図1ようになる。

図1

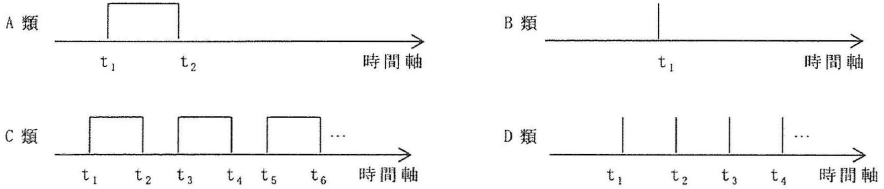


図1で示すように、A類の時の状況成分は、「繰り返しの幅」( $t_1 \rightarrow t_2$ )を持ち、頻度の修飾成分の前に出現すれば、(22)のように、「去年」という「繰り返しの幅」において、事態が繰り返し、文が「去年という時間幅に図書館へ行くコトがいつも／たびたび／しばしばある」という意味になり、文の許容度が高い。これに対して、A類の時の状況成分が頻度の修飾成分の後に現れるならば、「去年」という時の状況成分の「-繰り返し性」は、「いつも／常に／たびたび／しばしば」という頻度の修飾成分の「+繰り返し性」と矛盾している。また、意味からみれば、「去年図書館へ行ったコトがいつも／たびたび／しばしばある」という意味になってしまい、当然、常識から判断しても成り立たない。したがって、A類の時の状況成分は、頻度の修飾成分の後に出現することができない。

- (22) ○ 太郎は、去年 {いつも／常に／たびたび／しばしば} 図書館へ行って  
いた。  
(23) × 太郎は、{いつも／常に／たびたび／しばしば} 去年図書館へ行って  
いた。

次に、B類の時の状況成分は、時間軸上に唯一の点 ( $t_1$ ) だけで、「繰り返しの幅」も「繰り返し性」がないので、繰り返しを表す頻度の修飾成分の性質と矛盾している。従って、B類の時の状況成分は頻度の修飾成分の前にも後にも現れる可能性がない。

- (24) × 私は、去年3月27日午前11時に {いつも／常に／たびたび／しばしば  
／しょっちゅう} 花見に行った。  
(25) × 私は、{いつも／常に／たびたび／しばしば／しょっちゅう} 去年3月  
27日午前11時に花見に行った。

そして、C類の時の状況成分は、時間軸上において、「繰り返しの幅 ( $t_1 \rightarrow t_2$ )」と「繰り返し性 ( $t_1 \rightarrow t_2, t_3 \rightarrow t_4, t_5 \rightarrow t_6 \dots$ )」を持っている。C類は、頻度の修飾成分の前に出現すれば、(26)のように、「5月の下旬に」という時間幅において、「雨が降るコトが

いつも／しょっちゅう／時々／たまにある」という意味になり、頻度の修飾成分の後に現れると、(27)のように、「毎年、5月の下旬にという時間幅において雨が降るコトがいつも／しょっちゅう／時々／たまにある」という意味になり、いずれも、文の許容度が高い。

- (26) ○ この地方では5月の下旬に {いつも／しょっちゅう／時々／たまに} 雨が降る。
- (27) ○ この地方では {いつも／しょっちゅう／時々／たまに} 5月の下旬に雨が降る。

D類の時の状況成分は、「繰り返しの幅」がないが、「繰り返し性」を持っている。D類は、頻度の修飾成分の前後に出現すれば、(28)と(29)、(30)と(31)のように、文の許容度が変わるが、不定の「朝6時に」や「朝9時に」が時間軸上に繰り返している。動作「起きる」がこれらの点に「繰り返し開始する」ことや、「渋滞している」状態がこれらの点に「繰り返し現れる」ことが成立できるので、全体的に見て、文の許容度が高い。面白いことに、述語動詞の性質によって、文の許容度が異なっている。D類の時の状況成分が頻度の修飾成分の前に現れると、述語動詞は動作動詞（「起きる」）である場合（例(28)）、文の許容度がより低いが、述語動詞は状態動詞（「渋滞する」）である場合（例(30)）、文の許容度が高い。逆に、D類が頻度の修飾成分の後に出現する時、述語動詞は動作動詞である場合（例(29)）、許容度が高いが、述語動詞は状態動詞である場合（例(31)）、文の許容度が高い。したがって、語順や述語動詞の性質によって、文の許容度が違ってくるが、全体的には、D類の時の状況成分が頻度の修飾成分の前後に出現することができると言える。

- (28) 太郎は、朝6時に {○いつも／△常に／△しばしば／△たびたび／○時々／△たまに} 起きる。
- (29) 太郎は、{○いつも／○常に／○しばしば／○たびたび／○時々／○たまに} 朝6時に起きる。
- (30) この道路は、朝9時に {○いつも／○常に／○たびたび／○しばしば／○時々／○たまに} 渋滞している。
- (31) この道路は、{○いつも／○常に／△たびたび／○しばしば／○時々／△たまに} 朝9時に渋滞している。

表5で示すように、コーパス用例調査とアンケート調査では、D類の時の状況成分が頻度の修飾成分と共起できるかどうかについては、ずれがある。『新潮文庫』と新聞によるコーパス用例調査には、D類が頻度の修飾成分と共起する用例が極めて少ない。一方、アンケート調査によると、D類が頻度の修飾成分と共起できるという結果が見られ

る。このずれが起こる原因は、文体の差、つまり、書き言葉と話し言葉の差のためであると考えられる。なぜ、小説や新聞などの書き言葉には、このような用例が少ないのかは、今後の課題として残しておくことにする。

この節では、コーパス用例調査とアンケート調査の結果に基づいて、時の状況成分の類型ごとの意味的特徴から、全体的に、時の状況成分と頻度の修飾成分との共起について分析した。時の状況成分と頻度の修飾成分との共起の実態をまとめてみると、次のようになる。

#### 時の状況成分と頻度の修飾成分との共起

時の状況成分 A 類は頻度の修飾成分の前に出現し共起できるが、頻度の修飾成分の後に出現しない。B 類は、頻度の修飾成分と共起できない。C 類と D 類は、頻度の修飾成分の前後に現れ、共起できる。
---

ここからみれば、野田 (1984, 2006) における、時点の副詞 (時の状況成分に相当する) が頻度の副詞 (時相の副詞の一部) の前に出現するという指摘は、ただ本稿の A 類と C 類の時の状況成分が頻度の副詞の前に現れる場合だけを検討したにすぎず、C 類と D 類が頻度の副詞の後に現れる場合は考察されていない。

仁田 (2002) では、頻度の副詞が時の状況成分に含まれていると指摘されているが、C 類のような時の状況成分を<循環型>と呼ばれ、「頻度の副詞に包み込まれて出現している」と補説している。しかし、仁田 (2002) では、D 類が頻度の副詞の前後に出現する現象が考えられていない。また、仁田 (2002) では、頻度の副詞の前に出現する時の状況成分は、時間幅を有していなければならないと述べている。しかし、上に述べたように、話し言葉では、D 類のような時間幅を有していない時の状況成分が頻度の副詞の前にも後にも出現することができる。従って、本稿は、先行研究においてのこの不十分なところを補ったといえるだろう。

### 3.2.2. 時の状況成分と頻度の修飾成分との語順

3.2.1. 節では、時の状況成分と頻度の修飾成分との共起について分析した。この節では、時の状況成分と頻度の修飾成分との語順について検討してみたい。

前節で分析したように、A 類の時の状況成分は頻度の修飾成分と共起できるが、頻度の修飾成分の前にはしか現れない。B 類の時の状況成分は頻度の修飾成分の前にも後にも出現できないので、語順が問題にならない。C 類、D 類は、頻度の修飾成分の前にも後にも出現できる。しかし、時の状況成分と頻度の修飾成分との語順は、文の許容度をどう影響するか、また、頻度の修飾成分は文の許容度をどう影響するか。この節では、これらの問題について、分析してみる。



### 3.2.2.1. 時の状況成分と頻度の修飾成分の語順が文の許容度への影響

まず、同じ文において、時の状況成分と頻度の修飾成分との語順が文の許容度への影響について見てみよう。表 4-3、表 4-4 は、それぞれ時の状況成分 C 類と D 類が頻度の修飾成分と共に起る場合の文の許容度を示している。表の中には隣接する奇数番号の例文と偶数番号の例文が対になって（例えば、例 41 と例 42、例 43 と例 44、それぞれ、対になっている）。時の状況成分と頻度の修飾成分との語順による頻度の修飾成分ごとに文の許容度の差を比較すると、次の表 6 のようになる。なお、文の許容度の差は、次のように計算する。

$$\text{許容度の差} = (\text{時の状況成分} \rightarrow \text{頻度の修飾成分の文の許容度}) - (\text{頻度の修飾成分} \rightarrow \text{時の状況成分の許容度})$$

例えば、例 41 と例 42 の許容度の差は、 $1.9 - 1.86 = +0.04$ 。表 4-3 と表 4-4 に基づいて、計算すれば、語順による文の許容度の差は、次の表 6 になる。

表 6 語順による文の許容度の差

類型	頻度の修飾成分	例文－例文	許容度の差	類型	頻度の修飾成分	例文－例文	許容度の差
C 類	いつも	41－42	+ 0.04	C 類	いつも	61－62	+ 0.17
	常に	43－44	- 0.29		常に	63－64	+ 0.37
	しょっちゅう	45－46	+ 0.32		しばしば	65－66	+ 0.17
	時々	47－48	+ 0.31		たびたび	67－68	+ 0.63
	たまに	49－50	+ 0.32		時々	69－70	+ 0.15
	いつも	51－52	- 0.11		いつも	71－72	+ 0.07
	たびたび	53－54	+ 0.02		たびたび	73－74	- 0.24
	しばしば	55－56	+ 0.14		常に	75－76	- 0.09
	時々	57－58	+ 0.34		しばしば	77－78	- 0.06
	たまに	59－60	+ 0.10		時々	79－80	+ 0.52
D 類	いつも	81－82	- 0.54	D 類	いつも	93－94	- 0.10
	常に	83－84	- 0.71		常に	95－96	- 0.13
	しばしば	85－86	- 0.75		たびたび	97－98	+ 0.71
	たびたび	87－88	- 0.47		しばしば	99－100	- 0.31
	時々	89－90	- 0.48		時々	101－102	- 0.24
	たまに	91－92	- 1.17		たまに	103－104	+ 0.52

表 6 から分かるように、C 類の時の状況成分が頻度の修飾成分の前後に出現する文の許容度の差は、「+」のほうが多い。ここから、C 類の時の状況成分は頻度の修飾成分

の前に出現しやすいという傾向が見られる。

また、「いつも」の例文の許容度の差は、+ 0.04、- 0.10、+ 0.17、+ 0.07 で、「しばしば」の例文の許容度の差は、+ 0.14、+ 0.17、- 0.06 で、許容度の差がより小さいので、「いつも」と「しばしば」がC類の時の状況成分と共起する場合、語順の文の許容度への影響があまりない、即ち語順が均衡であるという傾向が見られる。これに対して、C類の時の状況成分と共起する場合の「常に」「たびたび」「時々」「たまに」においては、例文の許容度の差が大きい（許容度の差の平均値は、それぞれ、0.25、0.30、0.33、0.22）ので、時の状況成分とこれらの修飾成分と共起する場合、語順の文の許容度への影響が大きい、即ちC類の時の状況成分がこれらの頻度の修飾成分の前に出現するのが優勢であるという傾向が見られる。

D類の時の状況成分が頻度の修飾成分の前後に出現する文の許容度の差は、「-」のほうが多い。D類の時の状況成分が頻度の修飾成分の後に出現しやすいという傾向が見られる。また、「いつも」「常に」「しばしば」「たびたび」「時々」「たまに」といった頻度の修飾成分が動作動詞の述語を修飾する時、D類の時の状況成分との語順による許容度の差がかなり大きいので、これらの修飾成分が時の状況成分と共起する時、時の状況成分の前に現れるのが優勢であるといえるだろう。

### 3.2.2.2. 頻度の修飾成分が文の許容度への影響

この節では、同じ語順の同じ文において、頻度の修飾成分の違いによって、文の許容度への影響について検討してみる。まず、時の状況成分が頻度の修飾成分の前に出現する場合を分析する。

A類の時の状況成分の例文は、例1, 3, 7, 9, 11, 13は、一つの組で、表4-1によって、頻度の修飾成分による文の許容度の差が、「いつも」の例文の許容度を基準とすれば、次の表7になる。表の中において、頻度の副詞の前の数字は、例文の番号を表し、数値は、「いつも」の例文の許容度との差を表す（以下同）。

表7

	1. いつも	3. 常に	5. たびたび	7. しょっちゅう	9. しばしば	11. 時々	13. たまに
1. いつも	0	0.09	- 0.28	- 0.28	- 0.31	- 0.23	- 0.28

表7から分かるように、「いつも」の例文と「常に」の例文の許容度の差が小さく、いずれも「たびたび」「しょっちゅう」「しばしば」「時々」「たまに」の例文の許容度より低い。それに対して、「たびたび」「しょっちゅう」「しばしば」「時々」「たまに」の例文の許容度は高く、これら5つの間の許容度の差が小さい。ここから、A類の時の状況成分の後に出現する頻度の修飾成分を、「いつも」「常に」の類と「たびたび」「しょっちゅう」「しばしば」「時々」「たまに」の類に分けることができるようである。

B類の時の状況成分については頻度の修飾成分と共起できないので、ここでは、この

類のものを問題にしない。

C類の時の状況成分の後に出現する頻度の修飾成分の例文は、例 41, 43, 45, 47, 49 と、例 51, 53, 55, 57, 59 と、例 61, 63, 65, 67, 69 と、例 71, 73, 75, 77, 79 とが、それぞれ 1 つの組となる。表 4-3 によって、頻度の修飾成分による文の許容度の差を、「いつも」の例文の許容度を基準とすれば、次の表 8、表 9、表 10、表 11 になる。

表 8

	41. いつも	43. 常に	45. しょっちゅう	47. 時々	49. たまに
41. いつも	0	0.76	0.24	- 0.01	0.07

表 9

	51. いつも	53. たびたび	55. しばしば	57. 時々	59. たまに
51. いつも	0	0.21	0	- 0.15	- 0.12

表 10

	61. いつも	63. 常に	65. しばしば	67. たびたび	69. 時々
61. いつも	0	0.42	0.27	0.53	0.44

表 11

	71. いつも	73. たびたび	75. 常に	77. しばしば	79. 時々
71. いつも	0	0.67	0.43	0.48	0.05

表 8、表 10、表 11 から分かるように、「いつも」と「常に」の例文の許容度の差が大きい。先行研究では「常に」と「いつも」は、恒常性を表すものとして、他の頻度の副詞と分かれるが、ここから「常に」と「いつも」の性質や意味・用法が必ずしも同じではないことが分かる。また、表 8～表 11 から、例 69 を除いて、「いつも」と「時々」「たまに」の例文の許容度がいずれも高く、それらの例文の許容度の差が小さいということが分かるので、この三つの頻度の副詞は何らかの共通性を持っているかもしれない。表 9、表 10、表 11 から分かるように、「たびたび」の例文が他の頻度の副詞の例文の許容度より最も低く、「たびたび」は C 類の時の状況成分の後に出現しにくいといえる。

D 類の時の状況成分の後に出現する頻度の修飾成分の例文は、例 81, 83, 85, 87, 89, 91 と、例 93, 95, 97, 99, 101, 103 とが、それぞれ 1 つの組となる。表 4-4 によって、頻度の修飾成分による文の許容度の差は、「いつも」の例文の許容度を基準とすれば、次の表 12、表 13 になる。

表 12

	81. いつも	83. 常に	85. しばしば	87. たびたび	89. 時々	91. たまに
81. いつも	0	0.23	0.35	0.60	0.08	0.63

表 13

	93. いつも	95. 常に	97. たびたび	99. しばしば	101. 時々	103. たまに
93. いつも	0	0.43	0.34	0.58	0.44	0.31

表 12、表 13 から、「いつも」の例文の許容度が他の頻度の修飾成分の例文より高いことが分かる。また、表 13 で示す述語が状態変化動詞である例文の許容度が、表 12 で示す述語が動作動詞である例文の許容度より高い、ここから見れば、頻度の修飾成分が用いられる文の許容度が述語動詞の性質にも関係していることがわかる。

引き続き、時の状況成分が頻度の修飾成分の後に出現する場合を分析する。A 類、B 類の時の状況成分については頻度の修飾成分の後に出現することができないため、ここでは問題にしない。

C 類の時の状況成分が頻度の修飾成分の後に出現する例文は、例 42, 44, 46, 48, 50 と、例 52, 54, 56, 58, 60 と、例 62, 64, 66, 68, 70 と、例 72, 74, 76, 78, 80 とが、それぞれ 1 つの組をなす。表 4-3 によって、頻度の修飾成分による文の許容度の差は、「いつも」の例文の許容度を基準とすれば、次の表 14、表 15、表 16、表 17 のようになる。

表 14

	42. いつも	44. 常に	46. しょっちゅう	48. 時々	50. たまに
42. いつも	0	0.43	0.52	0.26	0.35

表 15

	52. いつも	54. たびたび	56. しばしば	58. 時々	60. たまに
52. いつも	0	0.34	0.25	0.30	0.09

表 16

	62. いつも	64. 常に	66. しばしば	68. たびたび	70. 時々
61. いつも	0	0.62	0.27	0.99	0.42

表 17

	72. いつも	74. たびたび	76. 常に	78. しばしば	80. 時々
72. いつも	0	0.36	0.27	0.35	0.50

表 14～17 から分かるように、「いつも」の例文の許容度は他の頻度の修飾成分の例文より、いずれも著しく高い。一方、「常に」の例文と「しょっちゅう」「しばしば」「時々」「たまに」の例文と比べると、許容度の差は小さい。仁田 (2002) では、「いつも」と「常に」が一類として取り上げられて、ほかの頻度の副詞と区別しているが、ここの例文の許容度から見て、「いつも」と「常に」が異なる性質を持つ可能性が示唆される。また、表 4-3 及び表 15～17 から、「たびたび」の例文の許容度が、他の頻度の修飾成分の例文より、著しく低いことが分かった。「たびたび」の意味・用法がほかの頻度の修飾成分と違っていると考えられる。

D 類の時の状況成分が頻度の修飾成分の後に出現する例文は、例 82, 84, 86, 88, 90, 92 と、例 94, 96, 98, 100, 102, 104 とが、それぞれ 1 つの組をなす。表 4-4 によって、頻度の修飾成分による文の許容度の差が、「いつも」の例文の許容度を基準とすれば、次の表 18, 表 19 のようになる。

表 18

	82. いつも	84. 常に	86. しばしば	88. たびたび	90. 時々	92. たまに
82. いつも	0	0.06	0.14	0.67	0.14	0

表 19

	94. いつも	96. 常に	98. たびたび	100. しばしば	102. 時々	104. たまに
94. いつも	0	0.19	0.94	0.16	0.09	0.72

表 4-4 及び表 18, 表 19 から分かるように、「いつも」の例文の許容度がほかの頻度の修飾成分の例文より高い。また、「たびたび」の例文の許容度がほかの頻度の修飾成分の例文よりいずれも低いことが分かる。

この節は、時の状況成分と頻度の修飾成分との語順が文の許容度への影響と、頻度の修飾成分が文の許容度への影響について検討してみた。時の状況成分と頻度の修飾成分との語順について、野田 (1984, 2006) や仁田 (2002) での指摘<sup>8</sup>は単純すぎるか、或は不十分であると考えられる。時の状況成分によって、また、頻度の修飾成分によって、語順が違ってくる、単一の基準だけでは記述できないと本稿は主張している。本節の考察を通して、時の状況成分と頻度の修飾成分との語順について、次のようにまとめる。

ア、A 類の時の状況成分は頻度の修飾成分の前にだけ出現する。B 類の時の状況成分が頻度の修飾成分と共に起できないため、語順が問題にならない。

- イ、C類の時の状況成分は頻度の修飾成分の前に出現しやすく、D類の時の状況成分が頻度の修飾成分の後に出現しやすい。
- ウ、「いつも」と「しばしば」がC類の時の状況成分と共起する場合、語順が前後均衡である。一方、「常に」「たびたび」「時々」「たまに」がC類の時の状況成分と共起する場合、C類の時の状況成分がこれらの頻度の修飾成分の前に出現するのが優勢であるという傾向が見られる。
- エ、「いつも」はC類、D類の時の状況成分の前後に現れても、文の許容度がほかの頻度の修飾成分の例文より著しく高い、「たびたび」はC類、D類の時の状況成分の前後に現れても、文の許容度がほかの頻度の修飾成分の例文より著しく低い。「いつも」と「たびたび」が、ほかの頻度の修飾成分と比べて、意味・用法がかなり異なっていると考えられる。
- オ、「いつも」と「常に」が、先行研究では、一類に分類されているが、「いつも」と「常に」が用いられる例文の許容度の差が大きく、「常に」の例文は「しよっちゅう」「しばしば」「時々」「たまに」の例文と比べて許容度の差が小さい。「いつも」と「常に」の意味・用法は異なっており、一類に分けるのは、適当ではないと考えられる。

#### 4. まとめと今後の課題

本稿では、時の状況成分を定的であるかどうか、時間幅があるかどうかという基準によって4類型に分類し、コーパス用例調査とアンケート調査で、時の状況成分と頻度の修飾成分との共起と語順について考察した。

考察した結果、時の状況成分と頻度の修飾成分との間の次のような共起の実態を明らかにした。A類は、頻度の修飾成分の前にだけ出現する；B類は、頻度の修飾成分と共起できない；C類とD類は、頻度の修飾成分の前後に出現できる。

時の状況成分と頻度の修飾成分との語順について、先行研究では、時の状況成分が頻度の修飾成分の前に現れるという指摘がなされているが、実際にはその指摘に当てはまらない例がある。本稿は、時の状況成分の類によって頻度の修飾成分との語順が違っているということを明らかにした。まず、A類の時の状況成分は、頻度の修飾成分の前には出現しない。C類の時の状況成分は頻度の修飾成分の前に出現しやすい。D類の時の状況成分は頻度の修飾成分の後に出現しやすい。

文の許容度から見て、「いつも」の例文の許容度はほかの頻度の修飾成分の例文より著しく高く、「たびたび」の例文の許容度は低いということが分かった。「いつも」と「たびたび」は、それぞれ、ほかの頻度の修飾成分の意味・用法と違っている。

ただし、本稿の範囲ではまだ十分に明らかにしできなかった点もある。例えば、小説や新聞記事という文体においてD類の時の状況成分が頻度の修飾成分と共起する用例が少ないが、アンケート調査によってこのような文が自然である、というずれをどう解

積すべきかはまだ不明である。頻度の修飾成分と時の状況成分との語順について、アンケート調査の例文の許容度だけから考察するのは、まだ不十分で、頻度の修飾成分の性質や意味・用法からも考察すべきである。そして、なぜアンケート調査に用いられる「いつも」の例文の許容度がほかの頻度の修飾成分の例文より著しく高いのか、なぜ「たびたび」の例文の許容度が低いのか。これらは、いずれも、今後の課題としたい。

### 【注】

1. 野田 (1984) を参照されたい。
2. 仁田 (2002) を参照されたい。
3. 矢澤 (2000) では、「ある事態が時間軸上においてどのぐらい存在するかという、事態の存在のあり方を表す」[頻度の修飾成分]と呼ばれている (p.230)。矢澤 (2007) では、これを「存在相修飾成分」と呼んでいる。
4. 仁田 (2002) によると、これらの副詞の他に、「シジウウ、チョクチョク、チョイチョイ、時タマ、常々、サイサイ、折々、ママ」も「頻度の副詞」であるが、いずれも『新潮文庫』には用例数が 100 例以下、新聞データベースには用例数が 300 例以下なので、サンプルとしていない。
5. 新聞の用例は、極めて多く (例えば、「いつも」の用例は、12985 例あり)、本稿はその一部だけに注目して分析することにした。
6. ここでの事態は、繰り返すことができる性質を持つ事態である。
7. 頻度の修飾成分によって、文の許容度の差があるが、この点については後半で分析する。
8. 野田 (1984, 2006) では、時の状況成分が頻度の修飾成分の前に出現すると指摘されている。仁田 (2002) では、時の状況成分が頻度の修飾成分を包み込むと見られている。

### 【参考文献】

- 佐伯哲夫 (1975)『現代日本の語順』笠間書院。  
佐伯哲夫 (1998)『要説日本文の語順』くろしお出版。  
仁田義雄 (1983)「動詞に係る副詞的修飾成分の諸相」『日本語学』2 巻 10 号, 明治書院。  
仁田義雄 (2002)『副詞的表現の諸相』くろしお出版。  
野田尚史 (1984)「副詞の語順」『日本語教育』52 号。  
野田尚史 (2006)「語の順序・成分の順序・文の順序—順序の自由度と順序の動機—」『日本語文法の新地平 1 形態・叙述内容編』益岡隆志・野田尚史・森山卓郎 編集, くろしお出版。  
森田良行 (1977)『基礎日本語 1—意味と使い方—』角川書店。  
森田良行 (1980)『基礎日本語 2—意味と使い方—』角川書店。  
森田良行 (1984)『基礎日本語 3—意味と使い方—』角川書店。  
矢澤真人 (1983)「情態修飾成分の整理——被修飾成分との呼応及び出現位置からの考察」『日本語と日本文学』3 号, 筑波大学国語国文学会。  
矢澤真人 (1991)「序列と連用修飾——コトの中のモーダルな修飾成分の取り扱い——」『国語国文論集』20 号。  
矢澤真人 (2000)「副詞的修飾の諸相」『日本語の文法 1 文の骨格』仁田義雄・村木新次郎・柴谷方良・矢澤真人共著, 岩波書店。  
矢澤真人 (2007)『日本語情態修飾関係の研究』筑波大学博士 (言語学) 学位請求論文。

## 【資料】

1. 『CD-ROM 版 新潮文庫の 100 冊』(新潮社版、1995 年)
2. 新聞データベース：  
『朝日新聞』(1985 年 1 月～1991 年 12 月)、『毎日新聞』(1999 年 1 月～2003 年 12 月)

## 【付記】

本稿の内容は、授業において筑波大学の矢澤真人先生、橋本修先生より有益なコメントをいただきました。筑波大学日本語日本文学会第 33 回大会 (2009 年 9 月 19 日) で発表する際には、田中章夫先生、宮城信先生などの方々から貴重なお意見をいただきました。ここに記して、厚く感謝申し上げたい。

ただし、言うまでもなく本稿での不備、誤りは筆者に帰せられるものである。

(ほう ぎょくぜん 筑波大学大学院博士課程 人文社会科学研究科 日本語学  
西南大学外国語学院 講師 (中国))